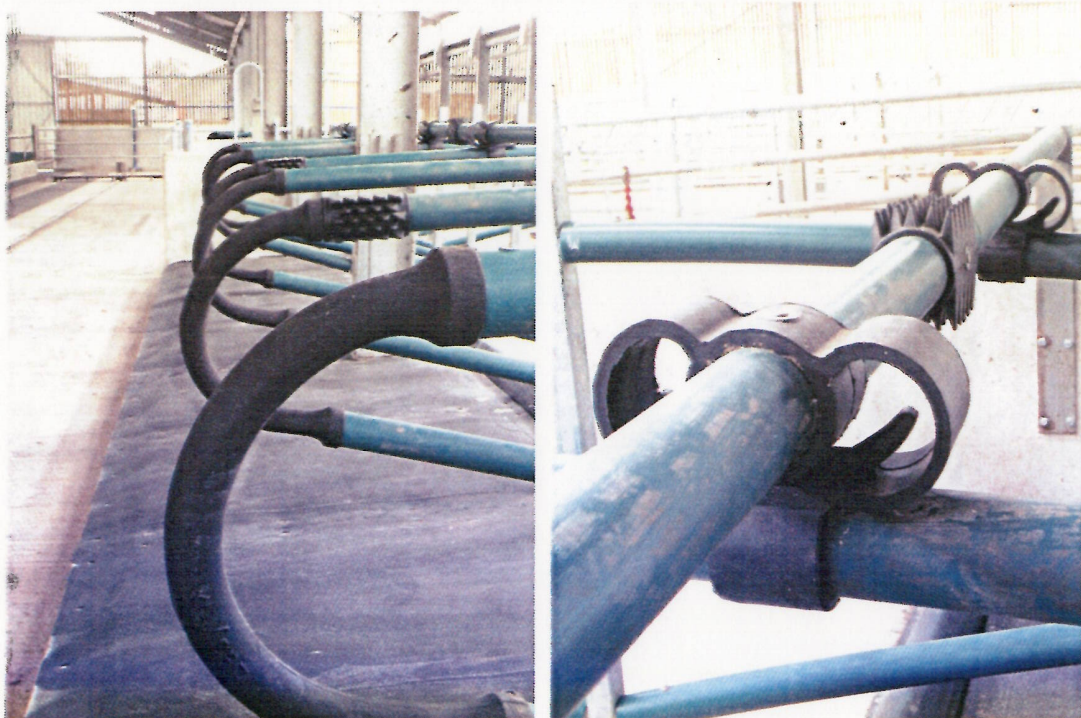


アイルランド ダブリン大学農場のストール

アイルランド滞在中に、現地の人にダブリン大学のフリーストール牛舎を案内してもらいました。ストールが今まで見たことのないものだったので、写真で紹介します。

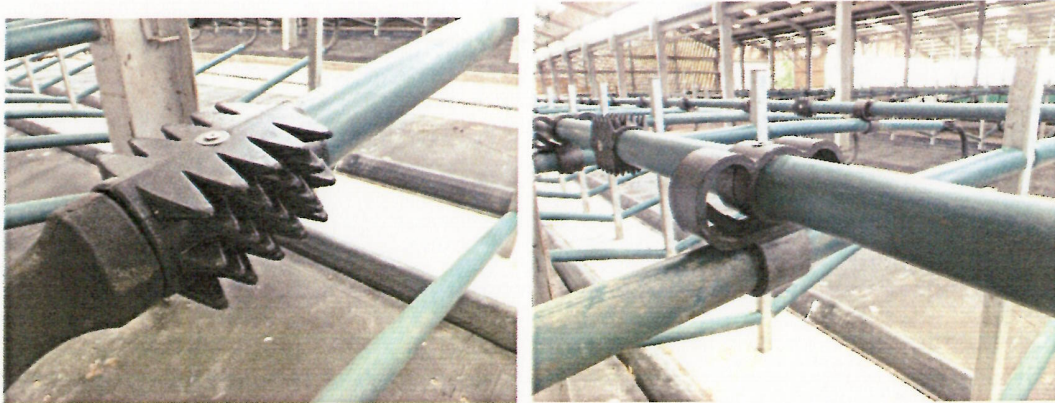


太目のプラスチック様パイプのストールです。牛が強くぶつかりやすいところがゴム製になっていて、それが可動性に作られています。



右写真のようにネックレールの接合もゴムで固定されていますが、これが一定の可動性を持っていて、前後：上下に動き牛との接触によるトラブルを緩和するようにできています。

ストール後部もゴム様のものになっています。押すと簡単に横にたわみます。壊れにくく、牛にも優しい作りにしてあるようです。



ストールの横（左写真）と、ネックレール中央（右写真）には、ギザギザがついています。

広がる趾皮膚炎（DD）

趾皮膚炎（以下DD）の主要原因菌として、スピロヘータ科（らせん菌）トレポネーマ（*Treponeme*）が挙げられています（趾皮膚炎病変から必ず分離される）。今、このトレポネーマ感染が牛だけではなく他の動物への感染が次々と明らかになっている。世界牛病学会での Dr.Stuart Carter の発表から、写真を抜粋して紹介します。

1) 様々な病態に関与している

DDといえば、趾間部のいぼ状病変が代表的なものです。調べていくと様々な病態表現のあることが報告されています。写真1は、牛の乳頭へのDD感染と壊死性病変です。皮膚表面の炎症と壊死を起こし、違和感から牛が自らその乳頭を齧りとってしまったものです。私どもが時々みるもので、トルポネーマ感染だということです。



写真1

写真2は、左から蹄病の白帯病、蹄底潰瘍、蹄先壊死にトルポネーマが感染して、その病態を悪化させ難治性となっているものを示しています。



写真2

写真3は、牛の大腿部表面や飛節にトルポネーマ感染があることを示しています。農場に存在するトルポネーマが様々な部位に感染し、その病態を悪化させているとのこと。



写真3

2) DDが様々な動物へ感染を広げている

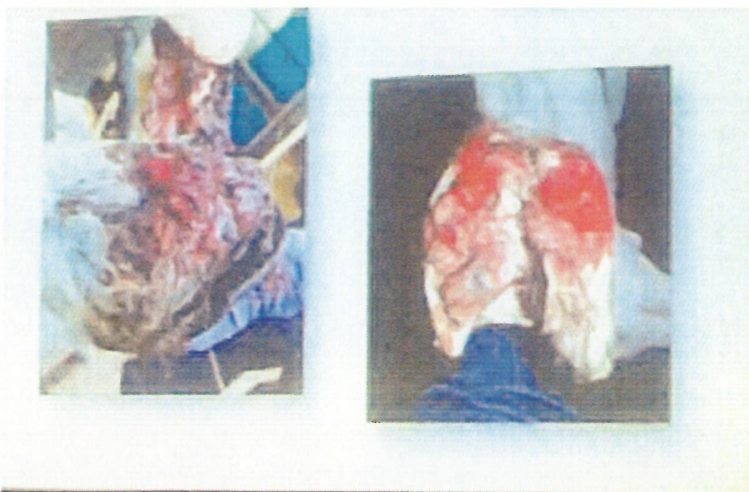


写真4 ヤギのDD



写真5 羊のDD



写真6 豚のDD

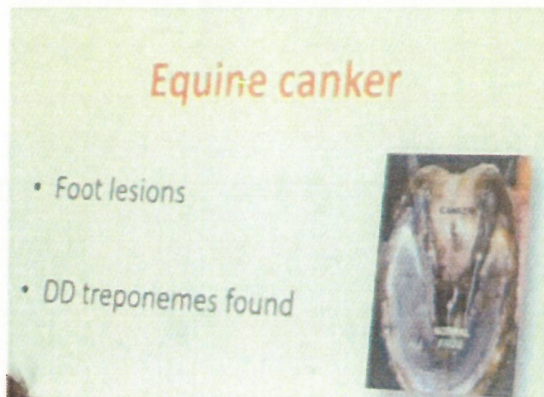


写真7 馬のDD

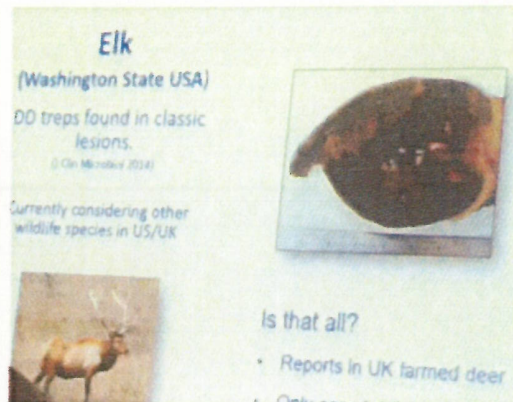


写真8 野生のエルクやシカのDD

いま、このトルポネーマ感染が農場にいる様々な動物だけではなく野生動物へも感染を広げていることに、強い警告をしています。また、人への感染もあるようです。

このトルポネーマは、DD牛の糞便からは必ず分離されその糞のなかで1日は生存するということです。牛は1日に大量の糞を何回もするのですから、農場の糞内にはトルポネーマが常在していることになります。

3) トルポネーマの伝搬者は？

この発表のなかで、Dr.Stuart Carter はその伝搬元について述べています。

- 農場にいるあらゆる動物 —犬や羊など—
- 隣接農場
- 車両・トラクター
- 農場の人・削蹄師・獣医師

などが伝搬させているとしています。削蹄師の削蹄道具や獣医師の蹄病治療道具などはより衛生的でなければならぬと警告しています。

彼らはこのトルポネーマ感染に対するワクチン作成に取り組んでいて、近い将来にそれらがマーケットにでてくる可能性が高いようです。

黒 崎